

平成30年度行政評価シート【個表】

平成 30 年 7 月 5 日

評価対象事業		評価者	保育課長 栗原 章郎		
こども-13	重点事業	特別保育事業	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務	主管課	保育課
	まち・ひと・しごと		<input type="checkbox"/> 法定受託事務	関連課	
総合計画上の位置付け	分野	子育て	施策の方針	すべての子育て家庭への支援	

1 事業の目的

対象	子ども・子育て支援法に基づく確認を受けた幼稚園、保育所及び認定こども園(特定教育・保育施設)に通う児童等
意図	特定教育・保育施設に通う児童等に係る通常保育以外の保育を行うため。
効果	子ども・子育て支援法に基づく地域子ども・子育て支援事業の充実を図ることができる。

2 平成29年度に実施した事業の概要

<ul style="list-style-type: none"> <li>・公立保育園における一時預かり事業の非常勤嘱託員報酬を執行した。</li> <li>・公立保育園における一時預かり事業の臨時的任用職員賃金を執行した。</li> <li>・公立保育園における一時預かり事業の非常勤嘱託員費用弁償を執行した。</li> <li>・病児・病後児保育事業に係る経費を執行した。</li> <li>・特定教育・保育施設等の通常の保育時間を超えた延長保育に要する経費に対する補助金を交付した。</li> <li>・特定教育・保育施設等の通常の教育時間を超えた預かり保育に要する経費に対する補助金を交付した。</li> <li>・特定教育・保育施設の一時的預かり事業に要する経費に対する補助金を交付した。</li> <li>・特定教育・保育施設における保護者からの実費徴収に当たり、生活保護世帯の負担を軽減するため、補助金を交付した。</li> <li>・病児保育事業を実施するに当たり、必要な改修費に対する補助金を交付した。</li> </ul>
---

3 事業費等基礎データ

データ区分	28年度決算		29年度決算		データ区分	30年度当初予算		備考
	人 口	世 帯 数	人 口	世 帯 数		人 口	世 帯 数	
人口等のデータ	176,869人	80,928世帯	176,466人	81,150世帯	176,308人	81,763世帯		・各年3月31日 (住民基本台帳)
事業の対象者数								
事業の対象者数								
運営資源状況	決算値(千円)	67,378	90,674	当初予算(千円)	146,351			
	国県支出金	42,739	52,496	国県支出金	76,536			
	地方債			地方債				
	その他	14,158	12,750	その他	15,992			
	一般財源	10,481	25,428	一般財源	53,823			
	人員配置数	2.5	1.5	人員配置数	1.5			
事業経費運営	人件費(千円)	19,310	11,967	人件費(千円)	12,034			
	総事業費(千円)	86,688	102,641	総事業費(千円)	158,385			
	市民1人当りの経費(円)	490	582	市民1人当りの経費(円)	898			
	対象者1人当りの経費(円)			対象者1人当りの経費(円)				

4 評価結果

※「効率性」「妥当性」「有効性」「公平性」「協働」については、プルダウンで選択。

効 率 性	事業費に削減余地はないか	2. ない
	関連・類似事業との統合はできないか	3. 統合できない
妥 当 性	事業の実施に対する市民ニーズはあるか	2. 増大している
	事業の廃止・休止による市民生活への影響は大きい	3. 廃止・休止による影響は大きくある
	今後も市が実施すべき事業か	5. 豊かな市民生活に寄与することから、今後も市が実施する必要がある
有 効 性	事業の成果は得られているか	3. 十分な成果が出ている
	事業の上位施策に向けた貢献度は大きい	4. 事業の方向性や手法も適切であり、大きく貢献している
公 平 性	受益者負担は公正・公平か	○-1. 負担導入済 ○-2. 適正な受益者負担を導入している
協 働	市民等と協働して事業を展開しているか	△. 協働未実施 協働実施済の場合のパートナー

事業内容の方向性	<input type="checkbox"/> a: 事業内容を見直す ⇒	見直しの種類	<input type="checkbox"/> 拡大	見直しの内容	事業へ統合
	<input checked="" type="checkbox"/> b: 事業内容は現状通りとする		<input type="checkbox"/> 縮小		
	<input type="checkbox"/> c: 事業を休止又は廃止する		<input type="checkbox"/> その他		
	<input type="checkbox"/> d: 他事業と統合し、本事業は廃止する ⇒				

予算規模の方向性	<input type="checkbox"/> A: 予算規模を拡大する	事業内容・予算規模の方向性設定の理由	子ども・子育て支援法に基づく地域子ども・子育て支援事業を推進するに当たり、今後も継続して事業を実施する必要があるため。
	<input checked="" type="checkbox"/> B: 予算規模は現状維持とする		
	<input type="checkbox"/> C: 予算規模を縮小する		

総評(評価に対する考え方、根拠等)	平成27年度に施行された子ども・子育て支援法第59条に基づく国県市負担による補助事業であり、一時預かり事業、延長保育事業及び病児保育事業等子育て環境の充実のため、実施主体である市において継続して実施していく必要がある。
-------------------	---

平成29年度事業実施にあたっての課題(前年度未解決の事項を含む)	本事業は、子ども・子育て支援法に基づく事業であり、国の子ども・子育て支援交付金の対象事業である。しかし、病後児保育事業では事業経費に対して交付金補助基準額が少額となっており、国県の負担に対し、市の負担が過大となっていた。病児保育事業について、保護者会等を通じて高い要望があったが、医療機関との連携体制等の課題から実施事業者がいなかった。
課題解決のために行った平成29年度の取組	国要望において補助基準額の適正化を要望した。 平成29年7月4日から鎌倉地域において病児保育事業を開始した。
未解決の課題、新たな課題とその理由	大船地域で病後児保育を、鎌倉地域で病児保育事業を行っており、児童の症状に応じて異なる地域の施設を利用する必要があり、利用者の利便性及び児童の処遇の継続性が課題になっている。

- 解決  
 一部解決  
 未解決

◎ 他市比較・ベンチマーク(県内外自治体など他自治体や民間団体との比較値)

比較事項	病児保育施設数(平成29年4月1日)									
団体名	鎌倉市	藤沢市	茅ヶ崎市	平塚市	大和市	小田原市	横浜市	川崎市	横須賀市	
他市実績	0施設	0施設	0施設	0施設	2施設	1施設	19施設	3施設	2施設	

比較事項	病後児保育施設数(平成29年4月1日)									
団体名	鎌倉市	藤沢市	茅ヶ崎市	平塚市	大和市	小田原市	横浜市	川崎市	横須賀市	
他市実績	1施設	3施設	1施設	1施設	0施設	2施設	4施設	3施設	0施設	

当該事業実施に伴う他市比較に関する考え方	本市では平成20年度から病後児保育事業を実施し、病児保育事業については高い市民ニーズを受け、平成29年度(7月)から開始した。県内では病児保育事業の実施市が増加しており、本市の子育て家庭への保育サービスの向上のため、事業継続に向けた取組みが必要となっている。
----------------------	---

◎ 事業実施に係る指標

指標の内容	利用者支援事業の推進(保育士資格を有する保育コンシェルジュ設置)				単位	箇所	指標の傾向	⇒	備考
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31		
利用者支援事業は、子ども・子育て支援法第59条に基づく地域子ども・子育て事業に位置付けられており、本市においても子育て家庭の保育サービスの利用を促進させるため。	目標値	0	0	1	1	1	1		
	実績値	0	0	1	1				
	達成率	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%				

当該事業実施に伴う指標の推移に関する考え方	子育て家庭が必要とする保育サービスの利用を促進させるため、また、待機児童対策のためのきめ細かな入所相談対応を実施するため、保育士資格を有する保育コンシェルジュの配置を行っており、今後も継続して配置を行い、利用者支援を継続していく。
-----------------------	---